

PICK UP

■センター便り
クスクと笑えたり、お出かけ時に役立つ各地区の地元ネタを提供。センターごとのカラーが垣間見える、お楽しみ企画。

■農政概説
道が発表する情報、または道への直接取材で得られた情報などを提供。時代の変り目に、次の北海道農業を考える貴重な情報を発信。

■アーティストック・チャイルド
取引先の方々やサングリン太陽園社員の子どもたちが、自慢の作品を披露するコーナーがスタート。現在も続く、名物企画に。



B5サイズ／40～70ページで制作／表紙、本文ともに2色刷り。裏表紙と本文の一部はカラー／年4回ペースで発行



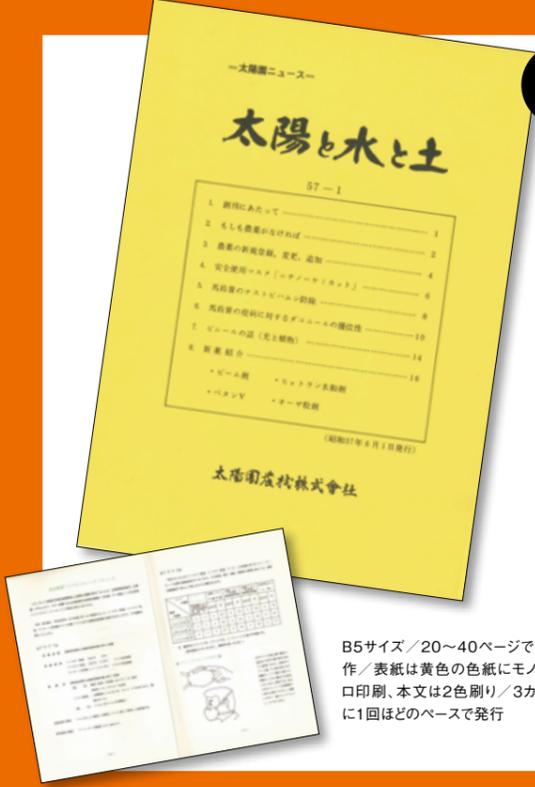
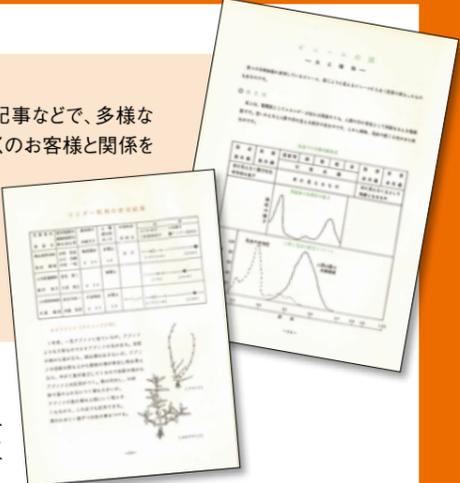
本州とは異なる気候風土の中で農業を営む方々に役立つ、より北海道に特化した情報を届けることに注力。未来の農業を考える材料として、農政情報も掲載するようになりまし。視覚的にも楽しめる誌面をめざし、一部ページをカラーにして発行することもありました。

1997~2006 Ver.3 (No.41~70)

PICK UP

■技術情報
各分野の専門家からの寄稿や、インタビュー記事などで、多様な知見や新情報を発信。読み物的な企画は、多くのお客様と関係を深める接点にもなった。

■展示圃成績抄
前身の「展示圃成績抄」を1企画として掲載。北海道内で、こうした情報を取引先に配っている会社は当時、珍しかったという。



B5サイズ／20～40ページで制作／表紙は黄色の色紙にモノクロ印刷、本文は2色刷り／3カ月に1回ほどのペースで発行

サングリン太陽園(当時は太陽園農材)では「太陽と水と土」発行以前から、独自の試験結果をまとめた「展示圃成績抄」を年1回作成し、配布していました。これを発展的に解消するかたちで、「技術情報誌」として発刊されたのが「太陽と水と土」です。展示圃場での試験結果に加え、新資材や道内各地の農業技術情報なども掲載されていました。

1982~1986 Ver.1 (No.1~9)



「太陽と水と土」の制作を担当していた当社OB
中村秀雄さんからメッセージ

初代制作担当の北山さんから始まり、多くの人の力で発行し続けてきた本誌。ネットが広く普及した今でも、「定期的に、触れられるかたちで届く情報」には、また違う役立ち方があります。これからも、北海道農業の未来を創る情報を、多くの方へ届け続けてください。

のを」という方針で取捨選択してきました。新資材の情報はもちろん、無人航空機やICT関連情報など、先進技術の動向に常に注目。さらに、これからの農業は「人」であるとの思いから、現役の生産者に取材し、未来の営農の参考になる情報も届けています。

創刊以来使い続けてきた冊子名ロゴの「太陽と水と土」は、創業者・北濱長作による、農業の基礎を表した言葉です。表現方法や特化するポイントが変わっても、本誌の存在意義が変わることはありません。北海道農業の発展に役立つ多種多様な情報を、私たちはこれからも、皆さまにお届けしていきます。

スペシャル企画④

プレイバック 太陽と水と土

100号を迎えた「太陽と水と土」。時代を感じる、さまざまな過去の企画を、懐かしの紙面とともに振り返ります。

「皆さまと弊社の情報交換のパイプ役として、90年代を先取りした情報誌として育ててきた」と「太陽と水と土」の創刊にあたって、当社の2代目社長である北濱正治は、このように思いを記しました。本誌創刊の一番の目的は、北海道農業の未来に貢献する、ということでした。いわゆる、現在でいう「企業の社会的責任(CSR)」の一環であり、今もその思いは、変わらぬ本誌制作の指針となっています。

取り上げる情報は、「常に時代の先を読んだ鮮度の高いも

SPECIAL

■90周年記念号
サングリン太陽園の創立90周年を記念して、71号をスペシャル号として発行。74ページのボリュームで、さまざまな情報を届けた。



PICK UP

■北の農業人
北海道農業の未来を創造する人々の現場取材。多くの写真とともに、営農の参考になる情報をお届け。

■植物の病気の話
農学博士・児玉不二雄先生が、軽妙な語り口でさまざまな植物の病気をわかりやすく解説。



■TECHNOLOGY FARM TIMES
北広島西の里に完成した「TECHNOLOGY FARM 西の里」に関するさまざまな情報を紹介。



A4サイズ／20ページ固定(92号からは24ページ固定)で制作／表紙、本文ともにカラー／71・79号は一部モノクロ／年2回ペースで発行



2007~ Ver.4 (No.71~)

それまでは主に自社で原稿作成、写真撮影を行っていましたが、71号からは編集プロダクションによる制作に。北海道農業の可能性を追求する農業人の紹介など、より農業の現場に迫った企画もスタートしました。誌面はフルカラーになり、より雑誌的な、楽しく読めるデザインに。また、ウェブサイトの誌面PDF公開も開始しました。

PICK UP

■坂本与市先生 連載コラム
当時、酪農学園大学の教授を務められていた、坂本先生の虫コラムを掲載。他は読み飛ばしても、ここだけは読むというファンも多かったという人気企画。

■質問コーナー・PR情報
読者からの質問に答える企画や、メーカーの新資材紹介企画は、インターネットのない時代、先進情報に触れる貴重な機会に。

■サングリン10大ニュース
年に1回、社内の笑える話題を掲載。「社員の個性を取引先に知ってもらい、雑談のきっかけに」という思いからの企画だった。



B5サイズ／30～80ページで制作／表紙、本文ともに2色刷り／4カ月に1回ほどのペースで発行

●10号分のみ、冊子名がフォントになったが、すぐに創業者・北濱長作による手書きの文字に戻った。これ以降、タイトルにはずっと手書き文字が使われている。

表紙を一新するとともにさまざまな新企画がスタート。なかでも、虫博士として知られた坂本与市先生のコラムは、2011年まで続く人気連載となりました。この頃から、サングリン太陽園の社員の紹介など、社内の情報掲載も増え、コミュニケーション誌としての側面も持つようになりました。

1987~1996 Ver.2 (No.10~40)